

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間の経済情勢は、米国では緩やかな回復が続いたものの、欧州財政危機への不安が世界経済に影響を及ぼし、アジアでも中国をはじめとして景気の拡大テンポが鈍化するなど、世界経済は減速感が広がりました。一方国内経済は、復興需要等を背景とする持ち直しの動きは見られたものの、円高や海外景気の減速など、不透明な環境が続きました。

このような状況の下、当社グループは、当期を最終年度とする三カ年の中期経営計画「ステージアップ2012ー新たななる挑戦ー」の基本方針である「持続的成長を可能にする収益基盤の確立」「財務構造改革の継続」「地球環境問題への対応と貢献」に基づき、各事業課題の解決に向け、取り組んでまいりました。

この結果、当社グループの連結売上高は前年同期に比べ65億1千8百万円減の4,644億5千9百万円、連結営業利益は118億7千5百万円減の231億9千4百万円、連結経常利益は90億9千8百万円減の220億7千1百万円、連結四半期純利益は68億8千万円減の125億7千2百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	連結四半期純利益
当第3四半期	4,644億円	231億円	220億円	125億円
前年同期	4,709億円	350億円	311億円	194億円
増減率	△1.4%	△33.9%	△29.2%	△35.4%

セグメント別の概況は以下のとおりです。

化成品・樹脂セグメント

ナイロン原料のカプロラクタムは、世界的な景気の減速や中国市場での他社新設備稼働開始に伴う需給緩和により市況が低迷する一方で、原料のベンゼン価格が高騰したため、スプレッド（製品と原料の値差）は好調だった前年同期に比べ大幅に縮小し、当セグメントの減益の主因となりました。ポリブタジエン（合成ゴム）も中国需要低迷の影響を受け、出荷は前年同期を下回りました。一方、ナイロン樹脂は食品包装フィルム用途を中心として堅調で、工業薬品はアンモニア製品が好調に推移しました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ112億5千3百万円減の1,629億1千5百万円、連結営業利益は151億1千1百万円減の43億7百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第3四半期	1,629億円	43億円
前年同期	1,741億円	194億円
増減率	△6.5%	△77.8%

機能品・ファインセグメント

リチウムイオン電池用の電池材料については、セパレーターの出荷は車載需要の立ち上がりもあり堅調でしたが、電解液の出荷は国内民生需要低迷の影響を受け低調でした。電子情報材料分野での需要回復遅れにより、薄型テレビ向けフィルムを中心とするポリイミドの出荷も伸び悩み、太陽電池生産部材向けを中心とするセラミックスなど、多くの機能性材料で出荷が低調でした。ファインケミカル製品は、総じて市況低迷の影響を受けました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ19億2千9百万円減の469億2千3百万円、連結営業利益は36億4千5百万円減の15億3千5百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第3四半期	469億円	15億円
前年同期	488億円	51億円
増減率	△3.9%	△70.4%

医薬セグメント

抗アレルギー剤や抗血小板剤の自社医薬品を中心として、原体・中間体の販売は伸長し、ロイヤルティー収入も増加しました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ14億2千6百万円増の83億5千7百万円、連結営業利益は6億2千7百万円増の27億4千6百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第3四半期	83億円	27億円
前年同期	69億円	21億円
増減率	20.6%	29.6%

建設資材セグメント

セメント・生コン及び建材製品の出荷は、マンション・住宅着工や企業の設備投資が持ち直すとともに、復興需要も出始めたことから、前年同期を上回りました。各種廃棄物の原燃料へのリサイクルも堅調でした。カルシア・マグネシア製品の販売は、自家発電設備の排煙脱硫向けの出荷は堅調でしたが、鉄鋼、電子情報材料向けの需要は低迷しました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ13億6千1百万円増の1,559億9千6百万円、連結営業利益は22億1千5百万円増の80億2千2百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第3四半期	1,559億円	80億円
前年同期	1,546億円	58億円
増減率	0.9%	38.1%

機械・金属成形セグメント

自動車産業向けを中心とする成形機は、新機種の市場への浸透が進み、受注は新興国・北米向けを中心に増加しました。堅型ミルや運搬機等の産業機械は、円高や国内外メーカーとの価格競争の激化等により受注では厳しい状況が続きましたが、足元の出荷は堅調でした。製鋼品は、市場の需要低迷及び円高の影響を受け、出荷は低調でした。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ22億5千4百万円増の509億2千9百万円、連結営業利益は20億2千7百万円増の27億9千2百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第3四半期	509億円	27億円
前年同期	486億円	7億円
増減率	4.6%	265.0%

エネルギー・環境セグメント

石炭事業は、販売炭の売上数量、コールセンター（石炭中継基地）の取扱い数量とも、化学、製紙会社向けを中心に好調でした。電力事業は、燃料である石炭価格の下落及び電力需給逼迫に伴う売電価格上昇により採算が改善したことに加えて、IPP発電所にかかる補修費が前年同期に比べ減少しました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前年同期に比べ34億6千9百万円増の495億5千4百万円、連結営業利益は17億2千5百万円増の42億3千2百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当第3四半期	495億円	42億円
前年同期	460億円	25億円
増減率	7.5%	68.8%

その他のセグメント

その他の連結売上高は前年同期に比べ4億4千8百万円減の193億7千万円、連結営業利益は4千万円増の8億5千万円となりました。

項 目	連結売上高	連結営業利益
当第3四半期	193億円	8億円
前 年 同 期	198億円	8億円
増 減 率	△2.3%	4.9%

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期末の総資産は前年度末に比べ、受取手形及び売掛金が61億7千6百万円減少しましたが、商品及び製品などのたな卸資産が111億8千4百万円増加したことなどにより流動資産が113億9千3百万円増加した結果、129億8千2百万円増加し6,779億4千7百万円となりました。

負債については、有利子負債が54億1千4百万円増加しましたが、未払法人税等が37億4千2百万円減少し、また賞与引当金が38億1千1百万円減少したことなどにより、63億6千2百万円減少し4,341億9千6百万円となりました。

純資産は、剰余金の配当により利益剰余金が50億3千5百万円減少しましたが、四半期純利益により利益剰余金が125億7千2百万円増加、タイ国子会社における第三者割当増資の実施などにより少数株主持分が84億5百万円増加、また為替換算調整勘定が34億5千7百万円改善したことなどにより、193億4千4百万円増加し2,437億5千1百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、本日公表しております「業績予想の修正に関するお知らせ」の通り、売上高6,280億円、営業利益280億円、経常利益235億円、当期純利益55億円を見込んでおります。